

2019年9月1日

北近畿経済新聞(1面)に掲載されました

日東精工の本社 (綾部市井倉町)



綾部の日東精工

地域の障害者を雇用

北近畿初の特例子会社設立へ

工業用ねじなどを製造する日東精工(株)本社・綾部市井倉町、材本正己社長)は、今月、CSR(企業の社会的責任)の一環で障害者を雇用する「特例子会社」を本社内に設立する。北近畿の企業としては初めて、親会社とは異なる労働条件が設定できるようになり、障害者の能力を引き出せるのが特長。親会社からの転籍や新規雇用により、障害者が正社員として安定的に働ける職場を目指す。

【樋口大亮】

安定して働ける場に

日東精工は14人の障害者を雇用し、法定雇用率は満たしているが、既存の労働条件や就業規則が障害者の特性に合わないため、正社員として働くことができず非正規雇用となっているケースがある。

特例子会社は、こうした従業員を受け皿にするとともに、地域の障害者の就労の場とする。

社名は「日東精工S WIMMY(スイミー)」。資本金の1千万円は日東精工が全額出

来年1月の事業開始めざす

資する。文書電子化やデータ入力、印刷、社内

解説 特例子会社 障害者の法定雇用率は従業員数が45・5人以上の民間企業で2・2%などと定められているが、一定の要件を満たした子会社であれば、その子会社で雇用する障害者を親会社の雇用率に算定できる制度。要件には、親会社からの役員派遣や障害者5人以上の雇用、障害者のための施設改善などがある。

内配送、清掃、施設の維持管理などを手掛け、グループ企業の業務を請け負う。社長は日東精工の檀野佳子ダイバーシティ推進室長兼人事総務部長が兼務する。

事業の開始時期は、特例子会社の認定が受けられると見込む来年1月ごろを予定。日東精工が改修や設備導入(日東精工は☎0773・42・3739)